

平成 17 年 3 月 2 日

各 位

会社名 ウィンテスト株式会社  
代表者名 代表取締役社長 奈良 彰治  
(コード番号 6721 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役経営企画室長 樋口 雅夫  
電話番号 045 - 317 - 7888

業績予想修正に関するお知らせ

最近の業績並びに取り巻く環境等を踏まえ、平成 16 年 9 月 13 日に発表しました平成 17 年 7 月期(平成 16 年 8 月 1 日～平成 17 年 7 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正致しましたので、お知らせします。

記

1. 平成 17 年 7 月期中間期の業績予想数値の修正(平成 16 年 8 月 1 日～平成 17 年 1 月 31 日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	919 百万円	101 百万円	60 百万円
今回修正予想(B)	890 百万円	190 百万円	112 百万円
増減額(B - A)	29 百万円	89 百万円	52 百万円
増減率(%)	3.1%	88.1%	86.6%
(ご参考)前期実績	1,281 百万円	429 百万円	239 百万円

2. 平成 17 年 7 月期通期業績予想数値の修正(平成 16 年 8 月 1 日～平成 17 年 7 月 31 日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	2,706 百万円	653 百万円	391 百万円
今回修正予想(B)	1,623 百万円	174 百万円	104 百万円
増減額(B - A)	1,083 百万円	479 百万円	287 百万円
増減率(%)	40.0%	73.3%	73.4%
(ご参考)前期実績	2,020 百万円	593 百万円	367 百万円

3. 修正の理由

当中間期における売上高につきましては、撮像素子向け検査装置の販売や、高温ポリシリコン向け検査装置の販売がほぼ計画通りとなる予定であることから、売上高は 890 百万円となる見込みです。

一方、経常利益及び中間純利益につきましては、試験研究費の発生が第3四半期以降にずれ込むこと、人件費が予算より減少すること、海外販売代理店向けのデモ装置の設置を延期していること等により当中間期における減価償却費の発生が減少したことから、経常利益は190百万円、当期中間純利益は112百万円と増加見込みとなりますので修正いたします。

下半期につきましては、撮像素子の生産数量の増加傾向が見られるものの当社顧客の設備投資の一服感やポリシリコン型液晶の設備投資の鈍化及びアクティブ型有機ELの量産延期等が予想されることから、当社の検査装置の販売についても当初の予測を下回る見込みとなり、当社全事業領域における当社検査装置への設備投資が本格的に回復するのは2005年後半からと思われます。

従いまして、平成17年7月期（平成16年8月1日～平成17年7月31日）通期の業績予想につきましては、売上高1,623百万円、経常利益174百万円、当期通期純利益104百万円の見込みとなります。

当社は従来の撮像素子検査装置並びにポリシリコン型液晶並びに有機EL、LCOS検査装置に加え、需要が見込まれる新規分野として表示検査装置及びその他半導体検査装置等の新製品の開発販売にも注力してゆく所存でございます。

\* 上記の予想は本資料発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの業績見通しとは異なる場合があります。

以上